

ZEPHYROS

ゼフュロス No.36

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ヴィルヘルム・ハンマースホイ《背を向けた若い女性のいる室内》
1904年頃 油彩/カンヴァス 61×50.5cm ラナス美術館
Photo©Niels Erik Høybye

ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情 Vilhelm Hammershøi : The Poetry of Silence

会期:2008年9月30日(火)～12月7日(日)

主催:国立西洋美術館、日本経済新聞社、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ

ヴィルヘルム・ハンマースホイ(1864-1916)は、生前にヨーロッパで高い評価を得ていたデンマークの世紀末を代表する作家の一人です。没後、急速に忘れ去られました。1997-98年にパリとニューヨークで、2003年にはハンブルクで回顧展が開かれ、ハンマースホイの評価が再び高まりました。そしていよいよ国立西洋美術館でも、この巨匠を取り上げます。本展はまず、ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツで始まりますが、展覧会自体は本館研究員の佐藤直樹と、ハンブルク展を組織したフェリックス・クレマーの二人が共同で企画したものです。

ロンドン展では70点ほどの展示となりますが、東京展では約90点のハンマースホイ作品に、同時期に活躍したデンマーク室内画派のピーダ・イルステズ(1861-1933)とカール・ホルスーウ(1863-1935)の18点を加えた総数100点を越す大規模な回顧展となります。ロンドン展が編年的な会場構成をとったのに対し、東京展ではハンマースホイが繰り返し描いた主要モチーフに焦点を合わせた主題別のセクション構成となっています。



ヴィルヘルム・ハンマースホイ
《ピアノを弾くイーダのいる室内》
1910年 油彩/カンヴァス 76×61.5cm
国立西洋美術館

す。ハンマースホイは、年月を重ねることで作風が変貌していく作家ではなく、限られたモチーフに固執し、初期から晩年まで同じスタイルを守り続けた作家なのです。その画業からは、展開や進歩という概念とは無縁の、最初から完成されていた一人の芸術家の姿を見ることがとなります。

17世紀オランダ絵画に強い影響を受けたハンマースホイの作風は、フェルメールを思わせる静謐で写実的な室内表現が特徴的です。コペンハーゲン、ストランゲゼ30番地のアパートを舞台に描かれた妻のイーダは、我々に顔を向けることなく、後姿を見せています。鑑賞者を心理的に画中へと導く後姿の人物像は、ドイツ・ロマン派の巨匠カスパー・ダーヴィット・フリードリヒの系譜に連なるものです。ハンマースホイの作品では、彼女の後姿によって画中に導入されつつも、同時にその背中で拒絶されているかのような「招かざる客人」としての不安感も得ることとなります。とは言え、居心地が悪いわけでは決してありません。そうした不安感を抱きつつも、音のない世界に包まれるような、静寂な絵画空間が創出されているからなのでしょう。オランダ風写実主義とドイツ・ロマン派的なメランコリーが融合する中に、見る者を惹き付けてやまないハンマースホイの芸術の本質が隠されているのです。

(主任研究員 佐藤 直樹)



ヴィルヘルム・ハンマースホイ
《ローマ、サント・ステーファノ・ロンド聖堂の内部》
1902年 油彩/カンヴァス 67.3×72.8cm
オーデンセ市立美術館
Photo©Odense Bys Museer / INFERNO,
Wermund Bendtsen Fotografi ApS

- ◆「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」観覧料
- 一般…………… 1,500円 (1,100円)
 - 大学生…………… 1,100円 (800円)
 - 高校生…………… 700円 (500円)
 - 中学生以下…………… 無料
- ※ ()内は20名以上の団体料金

作品の展示情報を検索できるデータベース

国立西洋美術館がどのような作品を所蔵しているかだけでなく、「その日に鑑賞できる作品」を調べられるデータベースを先ごろ開発し、当館のウェブサイトで公開中です。

「ゴッホの《ばら》を鑑賞したいのですが、いつ行ったら観ることができるでしょうか?」というようなご質問はたびたび寄せられるものの一つです。特定の作品が展示されているかどうかは電話やメールでお問い合わせいただくのも一つの方法ですが、もう一つの方法としてインターネット上でこのデータベースをお使いいただくことができます。「所蔵作品検索」メニューでは検索した作品が展示されていれば「展示中」と表示されますし、「常設展」メニューからは展示室の見取り図をクリックして、そこに展示されている作品を一覧表示させることができます。

この仕組みの背景には、美術館スタッフが業務で用いる所蔵作品管理システムがあります。美術館では貴重な文化財を守るため、常に作品の所在場所の情報も管理しています。このデータをウェブサイト上のサービスに応用しているため、最新の展示情報を確認することができます。

フランス政府から寄贈返還された370点の作

品に始まった国立西洋美術館のコレクションは、現在は絵画・素描・版画・彫刻・工芸を合わせて約4,500点を数えるまでになりました。データベースではその殆ど全てを検索することが可能です。これからも情報の追加・更新作業を進めて一層の充実を図っていく予定です。

(主任研究員 川口 雅子)



「常設展」メニューの画面

http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/search_5_area.do



国立西洋美術館ホームページ
<http://www.nmwa.go.jp/>

作品の詳細画面
(図版の下に展示場所が表示されています。)

国立西洋美術館では1980年にバウツ派の《荊冠のキリスト》を購入していましたが、奇しくも昨年度、このキリスト像と本来対作品であった同じくバウツ派の《悲しみの聖母》を購入することができました。それにより、約30年ぶりにふたつの作品が一つに揃うこととなりました。



当初これら2点は蝶番で結ばれ、お互いが向かい合わせに閉じる構造をしていました。その外側、つまり画面の裏にはそれぞれ同じ内容の銘文が記されています。それによると、カスティーリヤのイザベル女王の侍女を務めていた貴族の女性レオノル・チャコンが、自身の領地であったラ・プエブラ・デ・モンタルバンに1522年に設立したコンセプシオン修道院にこれらの作品を遺贈したことが知られます。レオノル・チャコン夫人の没年は残念ながら明らかとはなってはいませんが、修道院そのものが現在でも存続していることから、今後更なる調査を進めたく思っています。

一方、画面表の額下部にはラテン語による銘文が残されています。そこには『エレミアの哀歌』1-12にある「道ゆく人よ O vos omnes, qui transitis」が《悲しみの聖母》の下に、その続きの「心して／目を留めよ、よく見よ per viam, attendite, et videte」が《荊冠のキリスト》の下に記されています。書体は裏面の文字と同様18世紀のものと考えられますが、その下層に大文字古典書体の痕跡が残されていることから、古くからこの銘文が額に記されていたことが分かります。

かつては共にあった対の作品が人間の歴史の中で離ればなれになり、再び縁あって歴史的にも貴重な作品が元の姿に戻る。当館としても、喜ばしい限りです。 (主任研究員 高梨 光正)



「ヴィルヘルム・ハンマースホイ」展に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

① 9月30日(火) 14:00～15:30

アネ=ピアギデ・フォンスマーク(コペンハーゲン、オードロプゴー美術館長)
「カール・ドライヤーの映画におけるハンマースホイの影響」

② 10月4日(土) 14:00～15:30

フェリックス・クレマー(フランクフルト、シュテューデル美術館学芸員)
「ハンマースホイと象徴主義」

③ 11月22日(土) 14:00～15:30

田辺 欧(大阪大学世界言語研究センター准教授)
「19世紀末デンマーク、黒衣の女性が語るもの」

※講演会のタイトルは変更されることがあります。

会 場	国立西洋美術館講堂
定 員	各回先着145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
参加方法	当日12:00より、館内インフォメーションにて聴講券を配付します。なお、会場の講堂へは企画展改札(地下1階)を通過する必要がある、聴講券のみで通過いただけるのは13:30以降となります。(開場時間は各日共13:30)

◆スライドトーク

当展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行なっている下記の金曜日にスライドを使った解説を行ないます。

日 時	10月10日(金)、10月24日(金)、11月7日(金)、11月21日(金) 毎回18:00～(約40分)
解 説	佐藤 直樹(国立西洋美術館主任研究員) 萬屋 健司(大阪大学大学院)
会 場	国立西洋美術館講堂
定 員	先着145名(聴講無料。ただし、展覧会観覧券が必要です。) *直接講堂にお越しください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2008年8月～2009年1月

常設展示 (本館)

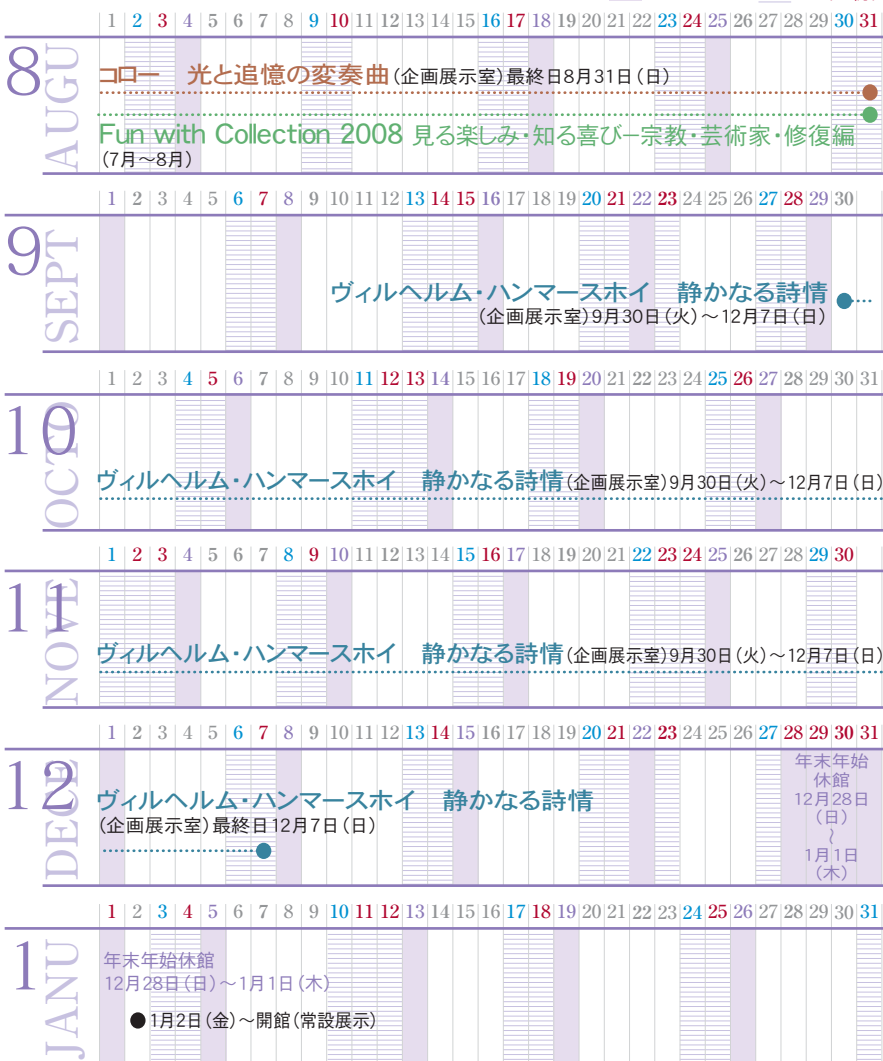
ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ・ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。
(常設展示室を一部閉館しております。展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

●常設展示室一部閉館についてのお知らせ●

新館設備改修工事のため、平成21年5月(予定)まで、常設展示室が一部閉館(本館のみ開館)しております。

来館者の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますこと、心よりお詫び申し上げます。
何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

休館日 土日・祝日



※展覧会名、会期、内容等に変更されることがあります。

●お知らせ●

チケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェ「すいれん」)でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。)
詳細については、当館ホームページをご覧ください。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分
(ただし、秋の企画展開会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中…午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
*入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさと色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第36号

編集・発行 国立西洋美術館/平成20年8月20日(年4回発行)
協力(財) 西洋美術振興財団
印刷 (株) アイネット

2009年、国立西洋美術館は50周年を迎えます。